

協同学習に必要なコミュニケーションスキルを 高める方法

佐瀬竜一（常葉大学教育学部）

キーワード：コミュニケーションスキル、カウンセリング、グループワーク

【企画趣旨】

協同教育は様々な教育現場で活用されており、一定の成果を挙げている。協同教育における学び、協同学習が成立するためには、学びの場が協同的な学習環境であることが求められる。Johnson, Johnson, & Smith (1991) は協同的な学習環境をつくり出すための基本要素として、互恵的な相互依存性・積極的相互作用・グループ目標と個人の責任の明確化・小集団スキルの促進・活動の振り返りと改善手続きの5つをあげている。しかし、コミュニケーション力（特に対人関係能力）の低下によって自ら友達を作ることが難しく孤立する児童・生徒・学生が増えている、一見対人関係が健全であると思われる児童・生徒・学生も実際の関係が希薄で表面的なものである場合が多いなど（宮下・杉村, 2008）、上記の要素を十分に満たして協同的な学習環境を創り出すことが教育現場では今まで以上に困難になってきていると考えられる。実際に、積極的に活動したいと考える学生と興味がない学生とが同じグループになった場合にグループの関係がうまくいかない、友達同士で同じグループになった場合にふざける、さぼる、グループ活動や対人関係に苦手意識を抱く学生がグループにうまく溶け込めない、などの理由により協同学習が機能しない場合があることが指摘されている（深津, 2013）。

したがって、協同学習を教育現場で今後さらに推進していくためには、今まで以上に様々な工夫、具体的には協同学習が成立するための準備もしくは促進する環境を作り出すための工夫が協同学習の導入時に必要であるといえる。特に、協同学習を行うための最低限のコミュニケーションスキル（聴く・質問する・伝える）をどのように養い、そして高めていくのが協同学習の成否を左右すると考えられる。

本ワークショップでは、児童・生徒・学生同士が初対面という状況を想定し、そのような状況において協同的な学習環境をつくるために指導者が何をすべきなのか、何ができるのかについて検討する。具体的には、カウンセリングや様々なグループワーク、心理学の考え方や手法を取り入れたワークによって協同学習に必要なコミュニケーションスキル（への意識）を高めて、協同的な学習環境をつくるための方法について体験的に学習する。

【ワークショップの流れ】

- (1) 企画趣旨と進め方の確認
- (2) コミュニケーションスキルとは：カウンセリングの理論などを基に
聴くスキル
質問するスキル
伝えるスキル
- (3) コミュニケーションスキルを体験的に学習する方法
聴くスキルの学習方法
質問するスキルの学習方法
伝えるスキルの学習方法
- (4) 協同的な学習環境（特にグループ）をつくるための方法
音楽療法の手法を取り入れたワーク
ブロック表現技法を取り入れたワーク
マシュマロチャレンジとワールドカフェ
- (5) 活用する際の注意点や活用方法の検討
- (6) 質疑応答・振り返り・参加者同士の情報交換

上記の流れに沿って進める予定であるが、参加者のニーズなどに応じて柔軟に対応できればと考えている。様々なワークを実際に体験してもらうだけでなく、質疑応答や振り返りなどを通して参加者の方の各現場での実際の活用・応用方法について検討する時間も設け、本ワークショップの内容を各自の教育現場に持ち帰って実践できるようになることを目指したい。

【引用文献】

- 深津達也 (2013). 「協同学習」を取り入れた大学教職授業の成果と課題 研究紀要, 10, 121-133.
- Johnson, D. W., Johnson, R. T., & Smith, K. A. (1991). *Active learning: Increasing college faculty instructional productivity*. ASHE-ERIC Higher Education Report, No. 4. Washington, DC: The George Washington University, School of Education and Human Development.
- 宮下一博・杉村和美 (2008). 大学生の自己分析—いまだ見えぬアイデンティティに突然づくために— ナカニシヤ出版